

平成30年 1月31日	<b>病害虫発生予報</b> <b>2月号</b>	茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会
----------------	------------------------------	------------------------

**農薬の誤飲に注意！**

～農薬やその希釈液をペットボトル等に移し替えてはダメ！～

＜ 目 次 ＞

<b>I. 今月の予報</b>	
<b>【注意すべき病害虫】</b>	
イチゴ：ハダニ類 . . . . .	1
促成ピーマン：アザミウマ類 . . . . .	1
促成トマト：灰色かび病 . . . . .	2
 <b>【その他の病害虫】</b>	
イチゴ，促成ピーマン，促成キュウリ . . . . .	2
 <b>II. 今月の気象予報 . . . . . 3</b>	
<p>最新の農薬登録内容は，（独）農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」（<a href="http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm">http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm</a>）で確認することができます。</p>	
<p style="text-align: center;">詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病害虫防除所    Tel：0299-45-8200 予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス <a href="http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/">http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/</a></p>	

# I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

## イチゴ

### 1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、寄生葉率（本年値 14.8%、過去9年平均値 15.1%）、発生地点率（本年値 50%、過去9年平均値 64%）ともに平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。  
② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。  
③ ミツバチや天敵を導入している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

## 促成ピーマン

### 1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、寄生花率（本年値 48.0%、平年値 34.1%）は平年並～やや高く、被害果率（本年値 2.8%、平年値 0.8%）は平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルス病を媒介するので発生の少ないうちに防除を徹底する。  
② 薬剤は、薬液が花や果実にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。  
③ 天敵を導入している場合は、影響が少ない薬剤を選択する。

## 促成トマト

### 1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在，発病株率（本年値 1.1%，平年値 0.5%），発生地点率（本年値 29%，平年値 8%）ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿の場合に発生しやすいので，暖房，送風，換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。  
 ② 花落ちが悪く残った花卉や罹病部はできるだけ取り除き，ハウス外に持ち出して適切に処分する。  
 ③ 薬剤は，薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，FRAC コードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。  
 ④ 薬剤散布は，晴れた日の午前中に行う。また，曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は，くん煙剤を利用する。

### 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや多い	1月下旬現在，平年並～やや多い発生である。発病果や発病葉はできるだけ取り除く。
	灰色かび病		
促成ピーマン	斑点病	発生量：平年並 ～やや少ない	1月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。
	うどんこ病	発生量：やや少ない ～少ない	1月下旬現在，平年よりやや少ない～少ない発生である。
促成キュウリ	うどんこ病	発生量：やや多い	1月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	褐斑病	発生量：平年並	1月下旬現在，平年並の発生である。
	べと病	発生量：やや少ない ～少ない	1月下旬現在，平年よりやや少ない～少ない発生である。

## II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 1月27日から2月26日)

気象庁(1月25日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	60	30	10
	降水量	関東甲信全域	40	40	20
	日照時間	関東甲信全域	20	40	40

[概要]

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 1月27日(土曜日)から2月2日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率50%

<2週目の予報> 2月3日(土曜日)から2月9日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率60%

<3週目から4週目の予報> 2月10日(土曜日)から2月23日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率ともに40%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類\* (FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成29年4月27日発表)の防除所レポート参照

- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。